

# 子供たちに夢を運んで

## 南子連キャラバン隊今年で20回目



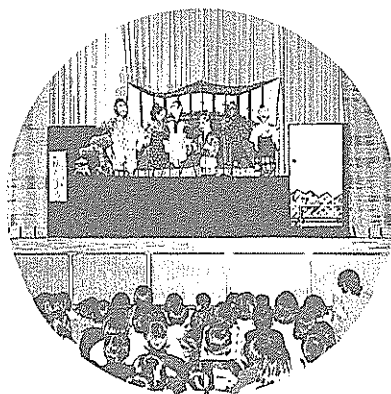
最後の二日は後免野田小で本番ながらの練習。「人形が低い」「振りを大きく」としつつた激励の声が飛ぶ。重い人形になると五、六分もあり、出演者は汗だく

ともありますが、「先生と子ども会、行政、子供が一体となつて、学校間の交流も盛んになり、子ども会の必要性が先生の間にも浸透しました。五里霧中で苦

いよいよ本番（国府小）

子供たちに楽しい人形劇を―と毎年続けられている南国市子ども会連合会（坂本真三会長）のキャラバン隊が、今年も二月二十三日に行われ、子供たちはお父さんやお母さんの熱演に目を輝かせていました。

も今年で二十回目。当初は子供たちとゲームなどを行っていましたが、他県の街角キャラバンを参考に、四回目から創作民話に基づいた人形劇を始めました。



労もしましたが、毎年喜んで待ってらっています。活動の中で自分が成長し、仲間も増えたのが一番の喜びです」とキャラバン隊が始まったとき会長を務めていた笠原清一さんは言います。

## これまでの活動をまとめ

### 「20年のあゆみ」発刊

#### ○母子寡婦福祉連合会○

手を取り合って二十年―南国市母子寡婦福祉連合会（久万富士会長）が結成二十年を迎え、これまでの活動をつづった「20年のあゆみ」を発刊しました。連合会は、昭和四十四年十月に誕生。交歓会や、運動会、新入児童の激励会、各種の講習会など様々な活動を行って、会員相互の交流や自立を図ってきました。

二月六日に開かれた発刊祝賀パーティーには、会員をはじめ関係者百人余りが出席。これまでの歴史を振り返り、和やかに歓談していました。

久万会長は「これから先、組織が地域に根ざして発展していく叩き台にしておうと作成

